

私たちは、手稲山から流れる川とその源流である手稲山の森をフィールドとして、子ども達とかつて子どもだった親たちオトナ達と共に自然の中に入り、生き物に触れ、遊び、感じ、癒され、育まれるよう、活動を展開しています。

6年目の活動となる2009年も、住宅地にわずかに残された自然である里の川での生きもの探し・モニタリング調査、豊かな自然の残る手稲山での生きもの探しやタネ拾い・タネ播き、そして笹刈り道づくり、アイヌ文化に学び森の恵みを食するなどさまざまな体験活動を展開してきました。

今後、これらの自然を守り育むとともに、かつてそうだったように遊び・学び・癒しの場として身近に利用できるように、地域の多くの方々との知恵を絞り、活動していきたいと考えています。



2009年春～秋 生きもの調べ・森づくり活動

子どもゆめ基金助成活動

今年も、手稲の住宅地を流れる河川とその水源の手稲山で、さまざまな体験活動を行いました。活動を通して、より深く自然に学ぶとともに付き合う技を磨き、かつ自然を守り育てる感性を育てていけることを期待しながら、これらの活動は子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)の助成で実施されました。

4月11日 手稲山麓 早春の林、蛙の卵探偵団

カッコウの森、稲穂川パンダ公園



今年は積雪が少なかったわりにとっても融雪が遅く、昨年みんなで蛙の卵を探った三樽別川の治山ダムは、まだ雪に閉ざされています。昨年とは違って変わって残雪のカッコウの森に行くことにします。

白く雪の残る林道を、鹿が剥いたツリバナなどの樹皮や鼠の齧ったカラマツやニセアカシアの幹、落ちている松ぼっくりやカツラなどの樹のタネ、クスサンの繭、ツルアジサイのガクなど見つけながらキャンプ場までぶらぶらザクザク歩きます。途中サンショウウオの池は、パックリ口を開けていました。卵はある？ あったあった、たくさんのエゾサンショウウオの卵が！ あ、親もいるよ！



富丘丸山への尾根は、最近急に増えているエゾシカが冬にササを食べるためシカ道ができ、この時季たくさんのフクジュソウが咲いています。雪のない時季には笹に覆われて行けない林をズボズボ行って、尾根から一瞬街を見下ろしました。雪の林で昼を食べた後、下山して(下見で当日ようやく蛙卵を見つけた)手稲西小学校裏のパンダ公園(稲穂川の遊砂地)に移動し、(普段の活動では生き物を持ち帰らない約束になっていますが)今回は特別に卵からオタマジャクシに育つところを観察しようということで少しだけエゾアカガエルの卵を持ち帰りました。



5月9日 手稲山麓 春の林の野鳥観察とタネ播き

カッコウの森、稲穂川パンダ公園



GWが明ければさすがに春！木々の新緑はこれからといったところですが、今だけ陽のあたる林床は、次々に花が咲き乱れ、ウキウキする季節の訪れ。さと川では、新社会人となったスタッフ笹森君の案内で、初の野鳥観察をしながらの散策です。もうセンダイムシクイもウグイスも鳴いています。

カッコウの森の奥、三樽別川沿いの散策路にもエゾエンゴサク、エンレイソウ、キクザキイチゲ、ナニワズ、オオタチツボスミレ、ヒトリシズカ、ニンソウなどの春植物が咲き、キタコブシ、ハウチワカエデ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、エゾヤマザクラなどの木々も咲いていて、はや春爛漫でした。



春の森は面白いこといっぱい、半分も行かないうちに、あらもう昼？？急いで入口まで戻って、三樽別緑地でポカポカ春の陽を浴びながら、育苗箱に昨秋手稲山で採取したシラカンバ(発芽促進：低温湿層処理3日)とハウチワカエデのタネ播きをしました。

食事をしていたら珍しく(私は初めて)ニホントカゲが現れ、子供たちのアイドルになっていました。



6月6日 手稲の川の生物モニタリング調査(初夏)+山菜採り&料理中の川+三樽別川+カッコウの森



昨年からスタートした川の生物モニタリング、今年は専門家のサポートなしで続けていくことに決め、昨年と同じ時期に中の川と三樽別川で行なうことにしました。まだ川は冷たいけれど、夏に羽化する水生昆虫が大きく育っているため、この時期の調査は有効なのです。とは言え、融雪水の混じった冷たい川に入るの、なかなか気が進まない。長靴のまま思い切って入っていき石をはぐると、いるいるいっぱいいます。トビケラ、カゲロウ、ガガンボ・・・スタッフの山木かおりの指導で、定量調査をする精鋭部隊「歯ブラシ隊」が上流でどんどん捕獲を進める一方、その他参加者は下流側で歓声をあげます。

次にもうひとつの企画「手稲山の葉っぱを食べよう」ということで、札幌市



環境教育リーダーの古川美枝子さん(手稲アウトドアクラブ)に案内をお願いして、葉っぱを集めて食べました。林を歩いて葉っぱを集めながら、アイヌや先人の知恵・生き物のつながり等のお話をしてもらいました。

そしてオヒョウ、イタヤカエデ、エゾヨモギなど、天婦羅にして美味しくいただき、初めて食べる山の幸に感激！これから葉っぱを見る時の感じ方が変わりますね。



7月4～5日 オオウバユリ採り 団子&オントレップづくり カッコウの森+三樽別川+パラダイスヒュッテ

これまで、北の大地でかつて自然とともに暮らしていたアイヌの知恵に学んでいきたいとの思いから、本田優子先生の講演会なども開催しつつ、アイヌが食料としていたオオウバユリの球根採取・加工を試みていました。このたびアイヌ民族博物館の元学芸員で白老めむの会協力会員でもある安田千夏さんから丁寧に教えていただけて、ようやく実現できました！

お団子を作るだけのでん粉を採るには、オオウバユリの、それも花茎の上がない球根を100個は集めないといけないとの安田さんの話。2週間前から手稲山麓をあちこち探して歩くものの、よく生えてそうな湿地はなく、また目が慣れるまでは花茎の上がないオオウバユリは見つかり難い。。



まず安田さんの講義を聞いたあと、カッコウの森や三樽別川の治山ダム辺りを探します。午前中いっぱいやって70個弱。今夜泊まるパラダイスヒュッテに移動して、子ども3名を中心とした精鋭採取隊がまた周辺で掘ってきてようやく集めました。球根は作業歌を歌いながら切った枝で搗いていきます。オントレップにする残渣を取り、水を入れて翌日まで沈殿させ、粉を取り団子にして食べました。



そしてお泊り。外で焼肉をして、薄暗くなってからはヒュッテ2階で『ロス・カルロス』による南米の民俗音楽フォルクローレのミニ演奏会などで大いに盛り上がり、子供たちはライトトラップの虫捕りなど夜更けまでそして早朝から激しく活動しました。

念願叶い、ひと晩語り合い、とても楽しいひとときでした。発酵後保存食とするオントレップ、現在乾燥中で冬には皆で食べる予定！乞う御期待ですな～



2009年春～秋 生きもの調べ・森づくり活動

子どもゆめ基金助成活動

8月9日 川の生き物調べ

中の川 + 星置川



中の川、星置川の生きもの調べ川遊び、残念ながら日程の都合で今年はこの1回だけになってしまいました。

大雨が少なかったせいか、中の川は細かい泥が多く溜まっていて濁りやすかったものの、例年通りウキゴリなどハゼの仲間やトミヨ、スナヤツメの幼生、スジエビやヌマエビなどが多く捕まりました。

星置川はJR橋の下の床止工に魚道が作られたので、その下で川に入ってみました。工事で少し破壊された部分もあるが、例年通りの生息状況のようでした。



その場所を選んだのは川流れが出来そうだったからで、昼食後にさと川探検隊初の川流れをやりました！流れは緩く短かったけれど、けっこう楽しめました。初め嫌がっていた子も一度流れてみると次からは歓声を上げどんどん流れました。貴重な川流れスポットとして、また利用していこうと思います。



9月12日 川の生物モニタリング調査(秋)+どんぐり播き

中の川 + 三樽別川、富丘西公園



さて秋のモニタリング調査、初夏と同じように中の川と三樽別川で行ないました。秋の水生昆虫は小さく見つけにくい。それでも目が慣れてくるといろいろ見えてきます。「とは言え、たくさん捕れるとソーティングがたいへんなんだよなあ」などとオトナは呟いてしまいます。

いずれにしても2回分のソーティングは11月にやらなければならない。。



どんぐりももう落ちていたので拾っていきます。今年この辺りは豊作のようです。富丘西公園でお昼ごはんのあと、公園内を歩いて栗やどんぐり、辛夷の実なども拾い、ポットにタネ播きもします。

片づけをしてたらアオダイショウの子も登場。またまた一躍みんなの人気者に・・・



10月24日 手稲山の森でタネ拾い+タネ播き with中溪宏一

星置川 滝ノ沢林道、乙女の滝



昨年一緒にタネ拾いと植樹を行なった中溪宏一さんが3月から半年の日本縦断植樹の旅から帰ってきたので、ミニ報告会を行なったあと、1歳の一心君と一緒にタネ拾いをすることにしました。

今回は初めて星置川上流域に足を踏み入れることに。手稲山北尾根滝ノ沢ルートの登山口まで車で行き、採石場の下を通り、林道へ。イタヤカエデやミズナラのタネを拾いながら登って行くと乙女の滝入口の看板。かつて日本第二の金鉱山だった頃の住宅の名残のコンクリートなどを見ながら降りていくと大きな滝が！深そうな滝つぼに高枝切りを入れてみると、なんと3mちょっとありました。



またタネを拾ったりヤマブドウを採ったり昆虫を見つれたりしながら入口まで戻り、星置川の活動場所へ。登って来たサケとホッチャレを見ながらチャンチャン焼き。これが美味い！さと川の昼飯はいつも最高！

このあとまたタネ播きをして解散。今年の外の活動はほぼ終わり。また雪が積もったら山で遊ぼう。



2009年 その他の主な活動

コープ未来の森づくり基金助成活動ほか

5月24日 春の芽吹きを苫東 草苺さんの雑木林へ

いつも訪ねている草苺健さんが管理している苫東の雑木林、芽吹きのコナラ林を訪ねました。手稲山とはぜんぜん違う太平洋側の雑木林で、丈の低いミヤコザサの刈り分け道を明るい春の陽射しを浴びつつカサカサ歩いていくと、とても心が和む。週末この林を管理している草苺さんのおもてなしの想いが満ちているせいでしょうか。

山菜も採り、焚火を囲み、美味しいホッキの鍋に舌鼓を打ち、まったり過ごして元気をもらいました。



5月30日 五天山公園でP.コールマン氏・上田市長が、手稲さと川探検隊が育てた苗木を植樹

世界中を歩いて苗木を植えているポール・コールマンさん(中溪宏一さんの師)が札幌市を訪れ、上田市長らと西区の五天山総合公園で植樹しました。植えられた苗木は、手稲さと川探検隊が手稲山でタネ採りして大切に育てたポット苗3本ほか。元気に育て～!

8月2日 左股川生きもの調べ 斎藤和範先生講演会 蛍観察会(西区ホタルの会共催)

西区ホタルの会との共催で、琴似発寒川の上流のホタルの自生地での生きもの調べを行ない、その後ざりがに探偵団の斎藤先生に、地域生態系を守るために何をすべきで何をしてはいけないか講演いただきました。そのあとホタルの舞う姿を観察。



9月23日 さっぽろサケフェスタ参加(札幌市豊平川さけ科学館主催)

さけ科学館の応援団として、今後の活用も進めるべく、サケフェスタに初出展。

9月3日 富丘小学校3年生 出前授業

昨年につづいて3年生の総合学習の一環として、近くの中の川の富丘川合流点で出前授業を実施。川での注意事項の説明と川遊びの約束をしたあと川まで歩いて行き、3グループに分かれて川に入って生き物を捕まえ、皆で名前を確認。身近な川の生き物の豊かさと、川で遊ぶルールを学びました。



11月8日 ササ刈り 富丘丸山登頂

カッコウの森から丸山尾根のシカ道までササ刈り道を作って、無雪期には行けなかった富丘丸山の山頂まで登り、枝の間から街を見渡しました。

樹木の苗の育成



～地域に自生している樹木から採ったタネを播いて育てています～

街の中を流れる川にはもう河畔林もなく、そもそもこの辺りには林もなく、だからもともと棲んでいた生き物はいなくなっていました。川の周りに兔や鳥たちが住める林があったら、それが手稲山とつながったら、札幌の周りをぐるりとつながったら、素晴らしいと思います。山口緑地など近隣地域での植樹やアースウォーカー中溪宏一さんにも苗を提供してます。そして何よりタネを採り苗を育てるのは、本当に楽しいことです。苗木づくりは誰もが参加できる未来に地球につながる活動。様々な人達と活動していきます。

<育てている苗木>ミズナラ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ハルニレ、アオダモ、ホオノキ、オヒョウ他

手稲さと川探検隊 会員募集中!

生きものガイドブック、マップなどを発行

- 「手稲生きものハンドブック」(A5版12p):道新野生生物基金助成活動
- 「手稲さと川マップ」(A2版4つ折り):前田一步園財団助成活動
- 「川の生きもの見分けシート」(A4版):前田一步園財団助成活動



手稲さと川探検隊の仲間になりませんか?

- 探検隊員:川の生きもの調べなどのイベントに参加できる方
年会費:1人1,000円 (ファミリー隊員 1家族1,800円)
- 応援隊員:手稲さと川探検隊の活動を応援して下さる方
活動応援費:1口 500円 イベント等のご案内、ニュースレターの送付などをさせていただきます。
- ボランティア・スタッフ:各イベントの企画・実施サポート、広報などお手伝いして下さる方
手稲さと川探検隊 連絡先:代表 鈴木 玲 Tel 080-1891-7847 Fax 011-684-4487
〒006-0807 札幌市手稲区新発寒7条6丁目8-19 E-mail aasuzuki@pop11.odn.ne.jp
ホームページ <http://t-satogawa.hp.infoseek.co.jp/> [市民活動サポートセンター登録No.41939](http://www.city.sapporo.jp/center/41939)